

Castelo de Salir

について



海岸と山々の間にあり、戦略的かつ中心的な要衝となっているサリル城は、キリスト教の軍事的圧力が強かった時代に、アルガルヴェのアルモハド城の重要な防衛拠点の一部でした。ポルトガル王サンチョ1世が1189年に村を征服した後、サリルがイスラム教徒から決定的に奪還された時代は定かではありませんが、タヴィラの征服後、聖ヤコブ騎士団の騎士らによって完了したとされています。入植地が占領されると、ポルトガルのアルフォンソ3世の治世下でファロとロウレを再征服するための戦略がここで練られました。

サリルの防御構造は12世紀に化粧しっくいにて建設され、後の建造物に組み込まれたいくつかの壁パネルと化粧しっくいを塗られた4つの塔が残っており、それらはすべて良い状態で保存されています。考古学的発掘により、中庭の周りに配置構成されたいくつかの居住用建造物の存在が明らかになり、アルコーブ、キッチン、オープン、および配管が発見されました。考古学的調査では、穀物を保管するために使用された、岩から掘られたサイロも発見されました。

発掘されたエリアには、サリルの博物館センター (Polo Museológico de Salir) があり、考古学的発掘中に特定された資料の一部と、訪問者がこれらの遺跡を屋外で見ることができる通路があります。

しかし、サリルのイスラム時代の痕跡は要塞だけにとどまりません。1016年から1017年にさかのぼるイスラム時代の墓石がサリルの近くで発見されており、ファロ市立博物館で観覧することができます。

サリル村にその名前を残した魔法にかけられたムーア人の伝説をご紹介します。ポルトガル軍のアルフォンソ3世に脅かされ、抵抗する機会がないと悟ったカスター（Castalar）のムーア人市長であるアベン・ファビラ（Aben-Fabilla）は、城から出る唯一の方法は逃げることでであると命じました。城を出る前に、彼は宝物を埋め、後でそれを取り戻すために戻ってくる予定でした。クリスチャンが城の胸壁を横切ったとき、彼らは城が放棄されていることに気づきました。残っていたのは、熱心に祈った市長の娘である美しい若い女性だけでした。騎士ドン・ゴンサロ・ペレス（D. Gonçalo Peres）に呼びかけられ、逃げるように促された美しいムーア人は、こう答えたそうです。「逃げるより死にたい!.....!」アベン・ファビラ（Aben-Fabilla）は近くの丘の頂上からキリスト教徒に捕らえられている彼の娘を見つけ、右手でソロモンのしるしをなぞる所作をしました。伝説によれば、こうすることでイスラム教徒は昔からこの王国で娘たちに魔法をかけていたそうです。その瞬間、少女は石像に姿を変えてしまいました。魔法にかけられたムーア人の噂が広まったある日、石造りの城主と化した若い娘は忽然と姿を消しました。現在サリルとして知られているその土地では、今でも少女の勇気に敬意を表して、ある条件が整った夜には魔法にかけられたムーア人が城の廃墟に現れると信じられています。

問い合わせ先

Loulé
電話： 289 400 600
Eメール: cmloule@cm-loule.pt
ウェブサイト: <https://www.cm-loule.pt/pt/151/castelo-de-salir.aspx>

